

「ささえ」

2019 年 1 月発行 情報誌 第 66 号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunit@sage.ocn.ne.jp

新 URL <http://npofukusiyougu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年 4 回(1 月・4 月・7 月・10 月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神 1 丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第 1 号

【製造元】

(株)福祉SDグループ

平成 27 年より、充電式も発売開始。【発売元】キヨタ(株)

**これまで、NPO福祉用具ネットが関わった
主な開発協力品** (現在は製造中止となっています。)



アルファブラ
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

全国に響け、「介護維新」の声！（下）

NPO福祉用具ネット 副理事長 坂田 栄二

「抱え上げない看護・介護を、あたりまえのケアに！」

NPO福祉用具ネットでは、これをスローガンに掲げ、地域に根付かせ拡大しようと頑張っている。

では、どうやればスローガンに取り組むのか？

下元先生の提案は、まず「核になる人の育成」であった。それは、平成30年の年明け早々の1月6日（土）から8日（月）に高知県で開催される「なちゅは」合宿研修にNPO福祉用具ネットの中から選抜した「核になる人」の参加のお誘いであった。本来は、「なちゅは」の北海道から沖縄までのメンバー中から選抜された52人の強化合宿であるが、その中にNPO福祉用具ネット枠を特別に設けていただくということだった。

NPO福祉用具ネットには、3人の枠を与えていただいた。

事務局からの急な呼びかけにも関わらず、3人は参加権利を得た。どれほど過酷な研修かも知理解せずに、NPOからの急な呼びかけに応じて参加したが、彼らは、新しい介護思想と技術を九州に持ち帰ってきた勇士と言える。

その研修の詳細は、本NPO発行の「ささえ63号」に寄稿して頂いており、読めば使命を受けて参加した彼らの真剣さが伝わってくる。そして、今後自分が何をしなければいけないかといった目的もしっかり見据え、自信と抱負を持っていることを窺い知ることが出来る。この、彼らの自信と抱負は、今では、NPOの大きな資産となっている。

技能認定の洗礼

では、彼らが洗礼を受けたチェック（技能認定）とはどんなものだろうか。

具体的には、「抱え上げない」ためのツール（リフト、スライディングボード・・・など）を、被介護者モデルを対象に実際に使いこなし、その際に使う目的や使い方をプレゼンする技術を、チェックリストに基づいてチェックマンに評価してもらい、規定をクリアすると認定OKとなる。

ここで重要なことは、認定を受ける人は、チェックリストに記載されている「どのような手順でツールを使い、その各過程毎で何を説明しなければならないか」をどうやってマスターしたかである。

彼らは、NPOの通常の研修では、リーダーとして研修生を指導する立場にある。

通常研修では、研修生の判らないところや修正すべきところを見つけて、部分指導をすることが多い。

しかし今回のチェックでは、被介護者と向き合い、

介護の最初から終わりまでを一貫して行うため、彼らは手順を間違わないように頭の中をもう一度整理しておかなければならない。

またチェックマンにとっては、他のチェックマンとの評価に差があってはならないので、チェック基準書が必要になる。

チェック基準書の制定

この基準書を編み出したのが「なちゅは」の下元先生であり、統一テキストとして制定されている。

テキストを作ることは極めて大変なことである。限られたページの中で、必要なことを、解かり易く記載するのがテキストである。

チェック用テキストの場合、まず第一に何をチェック項目とするか、その項目の重要度・優先度はどれだけかなどを決め、基本構成を考えることになるのだろう。

次いで、より理解しやすくするには、イラスト・写真が重宝される。しかし、どの方向から、どれくらいの大きさ（画角・サイズ）で、写真を撮れば理解しやすいのかを考える必要がある。その上、その写真にコメントをつけないければ、読み手はどこに注目すれば良いのか解からない。また、このコメントが面倒である。例えば「足を挙げて・・・」との記載があれば、読み手は、右足か左足か両足か迷う。このためには、写真とコメントとを連携させるよう記載に配慮しなければならない。

連続所作を写真・文字で表現する難しさ

もっと難しいことは、介護動作は一連の流れとして行われるが、この流れを文字化する点にある。また、不連続に写真化して並べても、実は分断された写真間にも重要な所作が隠れている点にある。

このような難しさは、例えば日本舞踊のような踊りやダンス、接遇の所作にも言える。日本舞踊では、師匠の前で、あるいは横に並んでその都度指摘を受けながら練習を繰り返すことで上達する。DVDやCDでも理解できそうに思うが、現実にはうまくいかない。

おそらく下元先生は、自分の介護動作を思い浮かべながら、何を優先させ、どんな写真を撮り、どんなコメントをつければよいのか、何を評価すれば良いのかなどを考えながら、忙しい時間の中でまとめ上げたに違いない。

この統一チェック用テキストが、惜しげもなく高知から発信され、腰痛に悩む日本中を変えることになるのだろう。そしてこれこそが、「介護維新」であろう。全国の有志は、立ち上がってほしい。

西日本国際福祉機器展報告 1 キネステ体験講座

NPO福祉用具ネット理事 海尾 美年子

今年のNPO福祉用具ネットのブースは3日間、抱え上げない介護のセミナー一色でした。セミナーは、抱え上げない介護に必要な福祉用具(グローブ、スライディングシート、リフト)の使い方やなぜ抱え上げない介護が必要なのか、そのための身体の使い方等のテーマで開催され、例年よりも増して会場は満席状態でした。

私たちは『ひとにやさしい介助を考える会』のキネステ体験講座でも、キネステティクス®のスキルを、抱え上げない介護の一つの引き出しとして紹介しました。

キネステティクス®では、地球という重力場で、自分の重さを、また、介助時に相手と自分の重さをどのように調整していくのかを体験を通して学びます。人は7つのボディパーツに分かれていて、それぞれの重さをどこか他のパーツに移して軽くなったパーツを動かすことで、人の自然な動きに沿った楽な動きができます。参加者のみなさんは、今まで行っていた介助がいかにかに力任せにしていたのか、自分の動きや、自分の動きが相手に及ぼす影響への気づきを得られたようです。感想をいくつかご紹介します。

<キネステ講座を体験しての感想>

・初めて参加をさせて頂き、体験することで、今まで自分達が行っていた介助を見直すことができました。こんなに楽で、しかも患者さんやスタッフにも負担が少なく実施できるという事、無駄な力を入れずに行えることにびっくりしました。この体験を職場で広め、活かしていきたいと思います。

・介助される側としてキネステティクスは楽だと感じました。介助する側としては重い、軽いと感じが違うことがあり、うまく体の重さをのせられている時と違う時の差だろうと思います。いつもいかにきつい動かし方をしているのか気づけました。仕事で使えるように考えることを続けていきます。

・今まで力任せの体位変換を行っていたと感じました。自分よりも体格のいい患者さんの体位変換にはいつも困っていましたが、今日学んだこと(骨に重さを乗せる事、逆に逃すこと、体重の乗る場所を考えて移動させること)を今後職場で活かし、自分にも患者にも優しい介助動作を行っていければと思います。

参加者のみなさんの様子や感想を拝見すると、介護、看護、介護されているご家族の方に是非知っていただきたいスキルだと改めて感じました。



イスから立つ時に、今から重さのかかる足に重さの流れる部位を触る、背中を頭方向にさする等、介助時の少しのサポートでその方の動きの支援ができるのです。キネステティクス®は、みなさんの生活のちょっとした動きの支援で対象者の自立支援へとつながります。この簡単な支援を知っているのと知らないのでは対象者へ及ぼす影響に大きな違いが生じます。たかが介助と思われるかもしれませんが、介護者の対象者への接触、動かし方は対象者の筋肉の緊張や呼吸、血圧等、健康に直結していきます。介護を専門職とされる方は是非知って頂きたいスキルです。これからの高齢化社会に向けて、介護する機会も多くなります。また、自分が高齢者になった時に怪我無く楽な動きができるように、身体の使い方を学習しておくことも高齢化社会を生き抜くスキルとなります。

さあ、みなさん、今からでも遅くはありません。キネステティクス®を学習しませんか。

西日本国際福祉機器展報告2 NPO福祉用具ネットブース内セミナー

NPO福祉用具ネット理事 左 広美

『PPC2018 第20回 西日本国際福祉機器展』

入場者数

15日(木) 6,577人

16日(金) 6,191人

17日(土) 7,301人 合計 20,069人

今年もNPO福祉用具ネットブース内に私が勤めている福岡県立大学の福祉用具研究会のパネル展示をしました。そのパネル展示コーナーを担当しつつ、11月15日木曜日は、NPO福祉用具ネット内セミナーのお手伝いをしました。その日のセミナーの様子をご報告します。

この日(11月15日)は、以下の内容についてそれぞれ1時間ずつ講義と実技が展開されました。

1. 医療・福祉業界の働き方改革～抱え上げない介護で魅力的な職場に～
講師：山形茂生氏
2. 抱え上げない介護技術①グローブでの圧抜き
講師：佐伯美智子氏、岩本幸子氏
3. 抱え上げない介護技術②リフトの使い方
講師：田崎真一氏 山形茂夫氏
4. 抱え上げない介護技術③座位姿勢と姿勢修正
講師：佐伯美智子氏 岩本幸子氏

会場には、例年と比べものにならないほど多くの方々が来られました。参加者の中で印象的な方々がおられたので紹介します。



まず紹介したいのは、先生に引率された高校の介護福祉科の学生さんたちです。会場の前列のイスには熱心なまなざしの彼らが座りました。日頃学んで



いること以上に専門用語が飛び交い、難しい面もあったかもしれませんが、どの学生さんたちも熱心に体を乗り出し聞き入っていたり、実技の際には積極的に体験を希望していました。

例えば、グローブの圧抜きではギャッジアップをして体に圧がかかった状態やベッドを倒し体が引っ張られてきつい状態で圧抜きをしてもらうと「うわ～あ。楽～!」と感動の表情で声をあげていました。この時の感動が、これから介護現場へ出て行く彼らにとって貴重な瞬間だ!と思いました。教科書でギャッジアップをしたら圧抜きをすると学び、それを暗記して知識として持っているだけでなく、その効果を実体験して感動していました。心地よさを感じて心が動いて次に彼らの行動が変わるんだろうなとこれからの活躍が楽しみになりました。

次に印象的だったのは、ある施設の職員さんたちです。その職員さんたちはセミナー参加に向けて宿題をもってきていました。「施設にいるAさんをできるだけ抱えることなく排せつ介助する方法を探る」ことでした。そのためセミナー3番目の「リフトの使い方」では食い入るようにお話を聞いていましたし、実技になると積極的に手をあげ、リフトに吊られる体験をしていました。吊られる人と吊られた様子を観察する人に分かれて、スタッフ同士で「あ～でもない、こ～でもない」と真剣に話し合っている姿を拝見していると、利用者のより良い生活のありかたを探究する施設の方針が垣間見えました。

最後に印象的だったのは、最初から最後まで受講した高齢男性です。その方の目的は何だったのでしょうか。セミナーのサポートをしながらあれこれと勝手に思いを巡らせていました。

抱え上げない、抱え上げられない介護のあり方が広がりますように。

「抱え上げない介護技術を伝えられる人になるための技術認定チェック」

合格者の声

実施日：2018年9月16日（日）～17日（月）

認定チェック項目：10項目（詳細はささえ65号に掲載）

挑戦者：33人

合格者：20人

合格者の皆さんに次の①～③について回答をしていただきました。

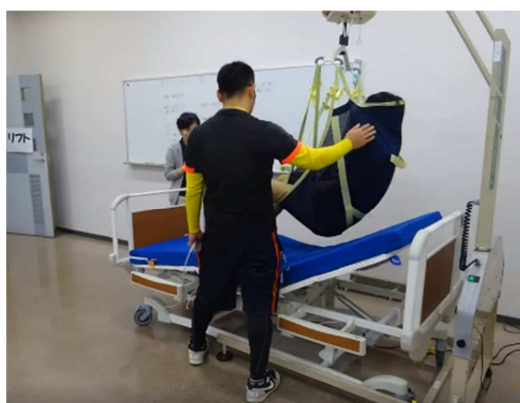
- ① 技術認定チェック対策として、特に頑張ったこと。
- ② 試験合格後に何か変化がありましたか（自分自身や廻りの変化など）。
- ③ 今、現在の活動状況を具体的に教えて下さい。



施設内での伝える仲間が育ってきています。リフトの購入までは時間がかかりそうなので、デモ機を借りたりして、現場への意識の浸透を図ることを試んでいます。購入についても上層部に働きかけていきたいと思っています。SAGAあたりまえケアネットワークの一員としては、依頼のあった研修会で伝える活動や、新規メンバーも増えたので、メンバー内での勉強会をおこなっています。

✧岩本幸子（理学療法士）✧

- ① 動画を見たり、チェック表にそって繰り返し確認したりして、自分独りで時間を見つけておこなっていましたが、やはり田川での学習会に参加したり、佐賀のチームで集まってお互いの動作を確認し、指摘してもらったことがとても役に立ちました。どこに行くにも移動は少し遠くて大変ではありましたが、その分の価値はあったと思っています。
- ② 試験に合格したと言っても、どうにか項目をこなすただけで、スムーズにわかりやすく伝えるにはまだまだだと思いますが、一応できていると認めて頂いたことで、いろんな場面で伝える際に、自分の（間違っていないという）自信になっています。認定を受ける前にも研修会のタスク等で伝える機会がありましたが、本当に正しいことを言えているのかの不安がありましたので。
- ③ 所属している施設では、短時間の伝達のを設けたり、利用者に合わせてその都度伝えたりしています。全職員対象の施設内研修会を1度行いました。シートやボードを少しずつ増やし、



✧染矢利章（理学療法士）✧

- ① 身体が硬いので、身体の動かし方、腰を落としての動き。
- ② 利用者さんへの身体の接触（ソフトタッチ）の仕方。説明時の言葉選びや理解していただけるよう分かりやすい言葉使いを心がけるようになった。具体的な改善までには至っていないが、自分や他者の不良姿勢に注意がいくようになった。
- ③ 技術認定チェック勉強会にタスクとして参加している。技術認定チェック受講者への個別勉強会の実施。

✧石塚和代（介護福祉士）✧

- ① 実技研修会の追加開催時、少しでも参加できるように仕事を調整し参加した。同僚にモデルになってもらい、夜遅くまで練習を行った。
- ② 合格が出発点と思い、より深く学ばなければと思った。職場では少数の方ではあるが、介助時の姿勢を正そうと努力してくれているし、介助時に一緒にケアに入り伝えるよう心掛けている。
- ③ ノーリフトケアを実施していない施設のため、技術認定伝達に携わっている。友人に伝達したいので時間を調節し、技術向上の訓練を行っていく予定である。

✧緒方博行（理学療法士）✧

- ① 自分なりに介助方法に関する理解を深め、介助時の身体の使い方を意識しました。
- ② 認定取得という肩書きもあるのか質問等を受ける事が増えました。また、自分への自信にも繋がりもっと頑張らないかという気持ちになりました。
- ③ 熊本での認定取得2期生育成やチェッカー練習が始まりました。熊本で実施している研修会でのタスクを担当しています。熊本では一項目ずつ各週に分け、2期生指導、2期生による介助指導やチェッカー練習として対応しています。



✧木村教子（作業療法士）✧

- ① 臨床ではリフトを使わないので、自主学習会で頑張っ練習した。抱え上げない介護の概念を動作と共に理解しながら覚えた。体重移動の仕方を教えて貰いながら、体に入れていった。ポジショニングやボード移乗の体の向きと体重移動についても頑張った。

- ② 抱え上げない介護を通してまずは、自分の職場で広めていかないと、自分が関わらない利用者さんの情報もダンボの耳で聞くようにした。介助方法についても、（聞かれなくても）よいアドバイスをしなければならないと考えようになった。座れない人の移乗方法として、リフトをどのように入れていくか模索中。
- ③ 臨床の場で抱え上げないで行える方法を家族や関わるスタッフに指導出来るように、今回身につけたものを人に分かりやすく指導出来るように日々模索中。田川で抱え上げない介護を広めるため、田川のメンバーでどのようにすれば良いか検討中。どこですか、道具がないので、太陽セランドに協力を得るためにはどうしたらよいか等々検討をすすめている。



✧中武亜希子（作業療法士）✧

- ① 自分の悪い癖や不得意な介助方法の練習や伝わりやすい説明、話し方、表現方法を頑張りました。
- ② 特に変わりはなく、手を抜かないよう行動しています。
- ③ 所属している施設職員に抱え上げない介護の指導を行っています。なちゅ福岡の活動を行っています。

✧大蔵典子（介護福祉士・相談支援専門員）✧

- ① 何度も何度も練習し、勉強会にできるだけ参加をして抱え上げない介護の動きを体で覚える努力をした。動きそのものを覚えるのではなく、なぜそうするのか、何のために行っているのかを常に考え、動くように気を付けた。人に上手く伝えるためにはどうしたらよいか、どう見せたらよいかなども必要と思い、見せる側・伝える側の気を付ける点も習得できるように頑張った。
- ② 自分自身では、重心移動や支持面での構えなど

自分の体の動かし方が楽しく、利用者の方が負担なく動いていただけるので、嬉しいです。他の職員からは研修や出張などに行くと、当施設の名前(ひばり〜ヒルズ)が出て「すごいところですね」と言われるらしく、それに恥ないような中身にしていかなければならないと思っています。

- ③ 地域では、当施設が大分県ノーリフティングケア推進事業のモデル施設でもあり、県内の他施設に抱え上げない介護を伝えに行く役割をいただき、伝達に頑張っているところです。自施設では、ノーリフティングケアチームメンバーの再編成を行い、再活動を始めたところです。



✧木村 頌（シーティングエンジニア・福祉用具専門相談員）✧

- ① 場数を踏むこと。人の喋り方、伝え方、意図を話している人から聞くこと。
- ② 主導して様々なことをやる必要があると感じました。人にやってもらってばかりではダメで、変えたいと思うなら、まず自分が動かなければならないと感じています。
- ③ ノーリフティングケアに関しては様々な場所で講義や啓発活動を行っており、依頼がある特養や病院においてはチームケアを意識したマネジメントに着手しています。職場内においてはノーリフティングケアを基本的なスキルとしてしっかり相手に伝えられる職員育成を目指し、所内でしっかり教えていける人材育成に努めています。

✧鎌瀬友理（介護福祉士）✧

- ① まずは技術を身体に染みこませること。しっかりと理解し身体の使い方、どの場面で自分が不良姿勢になってしまっているかを知る。いただいた資料の言葉を覚えるのではなく、自分らしい自分の言葉としてでてくるように意識しな

がら学んでいった。理由は、はじめて介護職に就く人に伝えるには、家族に介護指導をするなら、地域の方々に教える時には…と私自身スラ言うことはできないし「わからない」「難しい」「できない」と思っていたからこそ難しい言い回しや専門用語は使いたくないなと思っていたからだ。

- ② 合格した事で多少の自信にはなり、今までより積極的に人に教える事ができるようにはなってきた。また、学びにきた人からすれば私たちは、講師と同じような立場にみられていることを意識し気がひきしまつて勉強会に望むようになった。合格して人に教えるようになってからの方がより理解できていた。
- ③ 毎週水曜日に勉強会を開催しており、次に認定試験を受ける人だけが学ぶ週を設けている。今回認定を受けた人がタスクとして三組ほどに分かれて指導し最後にメンバー内で発表。認定試験のチェック項目を確認しながらフィードバックを行い私達自身も『観る』力をつける練習をしている。そして次の週には Facebook などの広報により集まった方を対象にした。勉強会を開催し認定試験を受ける人がそれぞれプレゼンを行う形をとっている。また小林代表に講師依頼があったときにはメンバーの中で行ける人はサポートに入り技術プレゼンを行なっている。

✧増本康代（作業療法士）✧

- ① なぜ、そうしなければならないのか理解を深めること。対象者を介助するとき、タッチの方法。シートやグローブを主に職場で使っているため、必ず使用方法をマスターすること。介助側の姿勢も出来るだけ体で覚えること。
- ② 自信が少しつきました。この認定があるからこそ、伝える機会を増やしていけると思えるようになりました。
- ③ 勤務先では、寝たきりの方や移乗に介助が必要な方がおられ、シートや圧抜きを常にしており、抱えない介助方法でその方に合わせた動きを考えながら行ってます。しかし少人数の抱えない介助だけでは、対象者の拘縮などの改善に繋がらないのが現状だと思います。今後、少しずつ勉強会が増えることで抱えない介護を伝えて行きたいと思っています。



事務局だより

《30年10月から12月までの事務局のうごき》

平成30年9月の追加

9月26日 開発品検証

情報誌ささえ65号 編集・校正・印刷・発送

平成30年10月

10月3日 開発相談
10月4日 開発相談2件
10月5日 開発相談
10月9日 開発相談
10月10日 開発相談 HCR1日目
10月11日 HCR2日目
10月12日 HCR3日目
10月17日 開発相談 福岡市
10月19日 開発相談
10月21日 学習会①
10月24日 福祉用具研究会
10月26日 開発相談
10月29日 開発相談
10月30日 開発相談
10月31日 開発相談2件

平成30年11月 西日本国際福祉機器展

11月2日 福岡セミナー
11月7日 開発相談
11月11日 学習会②
11月14日 展示場の設営
11月15日 西日本国際福祉機器展
11月16日 西日本国際福祉機器展
11月17日 西日本国際福祉機器展
11月19日 展示会後片づけ
11月21日 開発相談
11月22日 開発相談
11月23日 事例相談
11月27日 福祉用具研究会
11月28日 事例相談 北九州
開発相談 福岡市
11月29日 参入セミナー 県庁打ち合わせ

平成30年12月 忘年会

情報誌ささえ66号発行準備
12月1日 研修会打合せ
12月4日 開発相談3件
12月5日 開発相談
12月6日 大分出前講座 キネステ体験会
12月8日 忘年会
12月10日 開発相談
12月13日 開発相談
12月17日・18日 開発相談
12月20日 開発相談
12月21日 福祉用具研究会9回目
12月24日 学習会③

情報誌ささえ66号 編集・校正・印刷・発送

《今後の予定1月から3月まで》

1月情報誌ささえ66号発行

1月7日 開発相談
1月12日 佐賀出前講座 キネステ体験会
1月13日 学習会④
1月26日・27日・2月9日(3日間)
キネステティクス®ベーシックコース
キネステティクス®アドバンスコース
2月3日 学習会⑤
2月16日 メンタルヘルス学習会②
2月17日 学習会⑥
3月2日 福岡県立大学援助力養成プログラム
ひとにやさしいケア技術3コマ
3月10日 学習会⑦
3月16日 メンタルヘルス学習会③
3月24日 学習会⑧
3月31日 学習会⑨

会員更新手続きについて

2019年4月からの新年度のNPO福祉用具ネット会員更新手続き、及び新規会員を2019年1月から受付いたします。

但し、NPO福祉用具ネットの事業年度は、4月1日～翌年3月31日までです。

年度途中の入会の場合も、入会金と年会費は変わりません。

会員の更新手続きは1月～3月末までをお願い致します。

住所や氏名、連絡先のメールアドレス等に変更がない場合、年会費の振込だけお願い致します。

申込用紙の提出は不要です。

◆継続会員の方の年会費

個人会員 4,000円

団体会員 30,000円

◆新規に会員申込みをされる方は、所定の申込用紙がホームページより入手できます。事前に必要事項を記載の上、事務局にファックス又は郵送にてお申込みをお願い致します。

●個人会員 入会金1,000円 年会費4,000円
合計 5,000円

●団体会員 入会金2,000円 年会費30,000円
合計 32,000円

～振込先～

ゆうちょ銀行 振替

口座名義 エヌ・ピー・オー福祉用具ネット

口座番号 01740-5-103766

(伊田郵便局)